

～太祇(たいぎ)の句  
炭たん太祇たいぎは江戸中期の俳人

### 門へ来し花屋にみせる牡丹哉

自慢の牡丹を花を売りに来た花屋さんにみせている。  
花屋さんの言葉と表情を考えると可笑しい。

### 末摘や炭吹きおこす鼻の先

末摘は源氏物語の末摘の巻の主人公の名。  
滑稽なほど時代離れした赤鼻の女。  
炭を吹いておこしていると炭火にてらされて  
その鼻はまるで末摘のように赤いと言っている。

### 永き夜を半分酒に遣ひけり

現代の句としても充分通用する夜長を有効に使わず  
酔いどれている自分を悔やんでいるとも嘲っているとも・・・